食品加工流通コンビナート構想の実現に向けて

第5回 総合食料産業技術懇談会を開催

「西条クール・アース　プロジェクト」実験施設の視察

イチゴの周年栽培実験

サツキマスの陸上養殖実験

▲「西条クール・アース　プロジェクト」の実験施設では、太陽光や地下水などの自然エネルギーや工場排熱を有効活用し、MH冷水製造システムを利用した周年食糧生産実験を行っています。

西条市と㈱西条産業情報支援センター（サイクス）では、農林水産業（1次産業）、製造業（2次産業）、流通業・サービス業（3次産業）が連携した総合産業『6次産業』を創出することによって地域活性化を図るため『食品加工流通コンビナート構想』を打ち出し、平成17年3月に内閣府から地域再生計画の認定を受け、構想の実現化に向けた取り組みを推進しています。

去る9月10日、構想推進の核となる第5回総合食料産業技術懇談会を市役所で開催し、食料産業技術に造詣の深い全国トップクラスの先生方にご参集いただき、高度かつ専門的な見地から当市の取り組みについてさまざまなご指導・ご提言をいただきました。

懇談会に先がけて、先生方にはイチゴの周年栽培とサツキマスの陸上養殖の実証実験を行っている施設を視察いただきました。

この施設は低環境負荷での食料生産産業の創出をめざし、昨年に経済産業省の「低炭素型社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」（略称＝西条クール・アース　プロジェクト）の委託を受けて整備したもので、先生方は職員の説明を受けながら熱心に視察されていました。

視察後、東京農業大学・山本出名誉教授を座長に懇談会が開催され、先生方から多くのご意見・ご提言や、励ましの言葉を頂戴しました。（左ページで、その一部を紹介しています）

懇談会の翌日は、伊予銀行・愛媛銀行の後援で「総合食料産業技術セミナー」を石鎚山ハイウェイオアシス館で開催し、多くの受講者が出席しました。

セミナーでは、愛媛大学農学部教授の仁科弘重先生と、㈳全国豊かな海づくり推進協会専務理事の市村隆紀先生による講演を行い、仁科先生は「愛媛大学植物工場プロジェクトの進展と国家プロジェクトの動向」、市村先生は「地域連携をどう構築するか　―身近に漁や農がある意味―」と題して、それぞれの農業・水産業の立場で先進的事例を交えてご講演いただきました。

▲総合食料産業技術懇談会の様子

懇談会で得た先生方のご意見等を一部ご紹介します

【座長】 東京農業大学
名誉教授 山本 出氏

この懇談会に参加するたびに、ＭＨ冷水製造システムを利用した周年イチゴ栽培・陸上養殖の技術等が進展しており、それをいかに地域の活性化に結びつけ、また情報発信するか、さらには食品加工流通コンビナート構想に結びつけるための仕組みが構築されることを期待しています。

東海大学
国際教育センター所長 内田裕久氏

今年、ドイツで開催された国際水素エネルギー会議で、西条市とサイクスの取り組みを紹介し、世界的にも非常に素晴らしいとの評価をいただきました。
ぜひ、早期事業化に向けて、今後さらに発展することを期待しています。

東北大学
名誉教授 新井邦夫氏

食料とエネルギーで自立した地域を形成するためには、バイオマス（生物資源）を徹底的に利用することが必要です。
１次産業と２次産業の有機的な連携を強化し、化石燃料に依存しないシステムの構築をめざしており、将来、本構想にも寄与できるものと考えています。

千葉大学 環境健康フィールド科学センター
客員教授 池田英男氏

夏においしいイチゴを収穫するには、まだまだ工夫が必要です。
これまでの実績を踏まえて、トータルで栽培技術・環境・品種等を再検討することにより、事業化に向けて、10アールで10トンの収穫が実現するのではないかと思います。期待しています。

東海大学
海洋学部水産学科 教授 秋山信彦氏

陸上養殖の利点は水を浄化して海や川に返せるため、環境にやさしいところです。さらに水産資源確保の観点からは、陸上で食料を増産できるメリットがあります。
今後さらに研究開発し、発展させていくことができれば、いろんな漁種が陸上で養殖できるのではないかと期待しています。

近畿中国四国農業研究センター 中山間傾斜地域施設園芸チーム長 菅谷 博氏

今後も、これまでの課題解決に取り組みながらイチゴ、マスの研究開発を進め、また、事業終了後のことも見据えて、これからは、ソフト面でもマーケット等を意識しながら有効な手法等を考えていく必要があると思います。

㈱水産総合研究センター
屋島栽培漁業センター 今井 正氏

西条市は省エネ・低環境負荷による温度調節が可能なＭＨ冷水製造システムを利用し、閉鎖循環式飼育を研究開発していますが、これからは事業化に向けて、マーケティング調査等も同時に進め、消費者ニーズ等に柔軟に対応できるように、ソフト面の整備も必要だと思います。

㈱産業技術総合研究所 四国センター
産学官連携コーディネータ 勝村宗英氏

食品加工流通コンビナート構想の取り組みと情報を、全国に向けて情報発信することが重要です。また、成果は良いデータだけではなく、事業遂行上の矛盾点等も発信すべきです。これからは情報・データを、収集に来てもらえるような成果の発信も必要ではないかと思います。

大塚化学㈱
技術顧問 梅津憲治氏

培地冷却によるイチゴの早期収穫についての取り組みは、非常に魅力あるものですが、まだ課題もあり研究開発が必要であると感じました。実用化に向け、これらの課題を克服するためにも、ハードとソフトの両面を組み合わせた取り組みを推進していくことが非常に重要であると思います。

ＨＥＡＲＴの会（人間環境活性化研究会）
副理事長（サイクス取締役） 山内尚隆氏

食品加工流通コンビナート構想は、今はまだ実験段階であり、日々、研究開発しながらプロジェクトを推進していく時期であると思われます。
各先生方の意見を取り入れて、幅広い取り組みを行ってみてはいかがでしょうか。

■問合せ 食品加工流通コンビナート構想推進プロジェクトチーム
○懇談会・セミナーについて 市庁舎本館ものづくり支援課 農商工連携係 TEL0897－52－1437
○コンビナート構想について 産業情報支援センター内 ものづくり支援課 産学官連携係 TEL0897－53－0010